

平成24年度
まちづくりミーティングの質問と回答の要旨

◆鮎貝地区：7月3日（火）午後7時30分～9時 参加者数55人

<質問>

Q 学校後援会費という名目でお金を集められているが、小・中学校は義務教育なのだから町で全面的な予算化をするべきでないか？

A 学校後援会は各学校、各地区にある組織であり、それぞれに歴史があるもの。後援会は独自運営であり、学校を良くしていこうという地域のかたの「志」でできているものと認識している。

Q 中止することはできないのか？

A 教育に関わるものは教育委員会の予算で行っている。後援会費は、その他の後援会独自の事業に使われている。

A 学校後援会費、消防後援会費については強制的には集めないよう、無理はしないようお願いしている。善意であるので、いただいたお金は一律でない。具体的には教育の森、クラブ活動などに使わせてもらっている。

Q 中学校統合についてどこまで進んでいるのか。制服等のアンケートを書いたが、その集計結果はどうだったか（いつから制服が変わるかなど）。統合まで何年もない中、父兄は状況が見えにくいので分かるように情報を出してもらいたい。

A 現在、準備委員会を組織して検討中であるが、決定している事項がほとんどない状況。制服についてのアンケートの集計結果は、7月2日の学校生活部会で報告されたが、「統合時に一緒に制服になるようにする（25年度入学生から統一する）」が77.6%、「統合時の新入生から統一する」が22.4%であった。結果踏まえ、学校生活部会では、平成25年度から新制服にすることに。今後、準備委員会での検討となる。

学校施設の整備については総務部会で検討中。早急に基本方針を定めて実施設計に入りたい。決定事項がないため、お知らせできる事項が無い状況であるが、会議の様子などを、その都度、ホームページで公開していきたい。

Q 子どもたちに不安要素がないようお願いしたい。進み具合が分からずに生徒、父兄とも不安。

A 今後、各部会での討議から、総合的な準備委員会という2段階目の討議に入る。正式に決定した事項が出たら、保護者の皆様に学校や広報を通じてお知らせする。ホームページには経過、発言などを掲載している。

Q 中学校統合した場合 500 人くらいの生徒。今 100 人ぐらいずつ産まれているので、1 2、3 年後 300 人くらいの生徒数になる。バスの増便、武道館などの話があるが先を考えると無駄な投資をしない方がいいのではないかと。また、川西に学校が無くなることで、地域への関心が薄れるのではないかと。子どもたちが地域に集まるような事業を考えてもらいたい。

A 1 学年 100 人、全校生徒数 300 人とした場合、教育山形「さんさん」プランのため、1 学年で 4 クラス、全学年で 12 クラスとなる。統合時は 14 クラスであるため、15 年後減るのは 2 クラスと想定される。それにあわせて計画していきたい。

Q 防災計画について。3.11 以降、区単位で防災組織整備に取り組んできている。しかし末端の住民までは情報が行きわたっていない。町内単位くらいでないと地域の力が発揮できないのでは？地域の高齢者や、障がいのあるかたの把握。そうした配慮のある防災組織づくりが必要。

A 町では 3.11 以前に区単位での自主防災組織の立ち上げをお願いした。3.11 の経過をみると隣近所の助け合いが命の分岐点になった。分館単位、町内単位での取り組みも進んでいる。町が出向いて実際的な取り組みなどの話し合いをもちたい。高齢者や見守りが必要なかたは社協、民生委員と連携し、本人の了解を得て要援護者のリストを作成している。

Q コミュニティセンター化について。地区公民館は H 17 年度に今の制度になったが、現状の公民館運営の総括はどのように行われているか。

A H17 年度から今の体制となり、生涯学習、社会教育の分野を担ってもらっているが、今後、地域の人口の減少や地域課題が増えていく中で、社会教育という枠組みだけでは解決できない問題も出てくるものと考えられる。今後は、地域のかたがたが地域のために何が必要か自ら考え、実践していくことを行政が支援していくという仕組みを作っていく。職員が地域に入り、地域課題を整理し一緒になって地区計画を作っていく、コミュニティセンター化に向けて取り組みたい。

Q 鮎貝土地区画整理事業について。残った保留地の処分について、どのような選択肢があるのか？

A 現在、区画整理組合の役員と方向性を探っている。登記しなければならないが、町となるのか、土地開発公社、または役員となるのか、最良の方法を選んで、鮎貝地区の活性化につながるような保留地の処理をしていきたい。まだ結論は出ていない。

Q 自分の住んでいる所ではどのような災害が起きるのか、どういう避難の方法があるのか、想定しながら地域の中で自らが対策を考えるのが大事なこと。弱者の名簿はプライバシーの関係で難しいと聞くが、隣近所ならわかるので、いざというときの対策は、町内単位で訓練も含めてできれば。そういった指導をしてもらいたい。(要望)

コミュニティセンター化について。前回(H17)変わる時も地域づくりの拠点という目的だったが、できていないのか。コミュニティセンター化により区、町内、という制度が大きく変貌するのではないか。また、地区計画をたてるにあたり、町の総合計画との関係は。

A 第5次総合計画には、子育て・教育・雇用・産業・地域を重点施策としているが、その中でこれから地域が何に取り組むか、どの分野を重点的に取り組むかによって違ってくる。鮎貝地区（鮎貝、高岡、深山、黒鴨）でどういった計画を立てていくか、どういった切り口で進めていくかについて、課題を出しあって詰めていく必要がある。時間をかけて、丁寧に進めていきたい。

A 3.11を経験してから、地域づくりの取り組みがかわってきた。災害時「自助・共助・公助」といわれるが、自助・共助での対応が最も早く、重要である。自主防災組織で、消防団OBが払い下げの小型ポンプを保持するところもある。話し合いをしていく中で、自分たちの地域は自分たちで守り、自分たちで地域づくりしていく、という方向付けをさせていただきたい。また、地域担当職員を置き、連絡調整できるようにしたい。

Q 平成23年度に源八沢の改修をお願いしたが、中山間の補助金では、額が少なく出来ないのではないか。国、県の事業で改修してもらいたい。過去に赤坂、新町が水びたしになったことがある。現状をみてもらいたい。

A 昨年からの要望が出されており、土地改良区からも、増水等で被害があった場合などの被害回復のための要望などは受けている。沈砂池を含めて、現場を確認し対応を検討したい。

A 再度確認し検討する。

Q 浄水場の取水は高岡の下流からだが、黒鴨の上流にもっていけないか。現在の場所は、水量が少ない所ではないか。水質が悪いのではないか。

A 以前、黒鴨上流の取水を想定したことがあるが、高岡浄水場までのパイプライン6Kmの工事費約15億円の試算であった。また、上流で取水しても殺菌費用として現在と同額の年間40万円を要するため、経済的にも事業効果が薄い。水質については、実淵川水質浄化推進協議会を平成2年設立し水質保全に取り組んでいる。町の生活雑排水対策として深山地区の下水道事業、黒鴨、高岡の合併浄化槽整備をしている。水質検査も毎月行っており異常はない。

Q 中学校統合について、統合時に、東西の生徒が同じような学力となるように。(要望)

最上川が今、羽越水害と同じように氾濫したらどこまで浸水するのか。データがないと防災にならない。

A 最上川に監視カメラを設置し水位状況を確認している。警戒水位オーバーをふまえた具体的なシミュレーションを国、県と連携して進めている。

Q コミュニティとは何か。意味がわからないまま説明されてもわからない。今の地区公民館よりも業務量が増えると思うがどうなるのか。人件費、業務内容等の説明を。

A コミュニティとは地域、共同体の意味。業務が増えるという意見もあるが、今後、どういった事業をしていくか、地区計画の中で事業の取捨選択をしてもらいたい。業務過多とはならないように。業務内容については、それぞれ地区計画の内容が違うと思われるので、地域ごとに違ってくる。

Q 鮎貝土地区画整理地内に県道が新設されたが、街路灯については自動車学校まではあるが八幡川までない。統合保育園もできるがこれからどうするのか。県道を新設したら片側だけでもつけるべきではないか。

また、大町西町内に、家が建ってきた。一昨年街路灯1本新設されたが児童公園に防犯灯がない。

A 統合保育園側の道路沿いに2カ所検討中だが、電気の引き込みが保育園からになる。保育園側にしか建てられない。社会福祉協議会の電気代負担になってしまうが、町民の安心安全のため多少金銭面の負担をしても安全を確保したい。

公園付近の防犯灯については、町内負担も伴うため、話し合いをしながら取り組んでいく。

Q 町の古い施設の修繕はどうなっているのか？建てっぱなしではないか。1～2万円で済むことを放置してしまうと何十万円、何百万円かかり、建物がダメになっていく。適切に処置して欲しい。

A 施設の修繕については、予算措置で対応しているが、出来ないところも多々ある。なるべく対応したいと考えているが、ご理解をお願いしたい。

Q 以前、スポーツ公園の桜の植樹のことで電話したら、たらい回しにされた。どこに聞いたらわからない。

A どの担当であろうと内部の問題である。今後、たらい回しにするようなことがないように、徹底したい。

Q 防災計画の組織作りをどのようにしていくか。町内によっては一年で町内長が変わるところもあり、組織の構成が毎年変わってしまう。今後、訓練はどうするのか？町からの指導あるのか？

A まずは身近な単位で訓練してみる事が大事である。すでに話し合い行われているところもある。防災訓練（地区ごとの秋季消防演習）に組み入れる事もいいのではないかと。